

「探究的な学習の過程」の方法論

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』

小学校編（令和3年3月）

中学校編（令和4年3月）を用いて

大分大学大学院教育学研究科

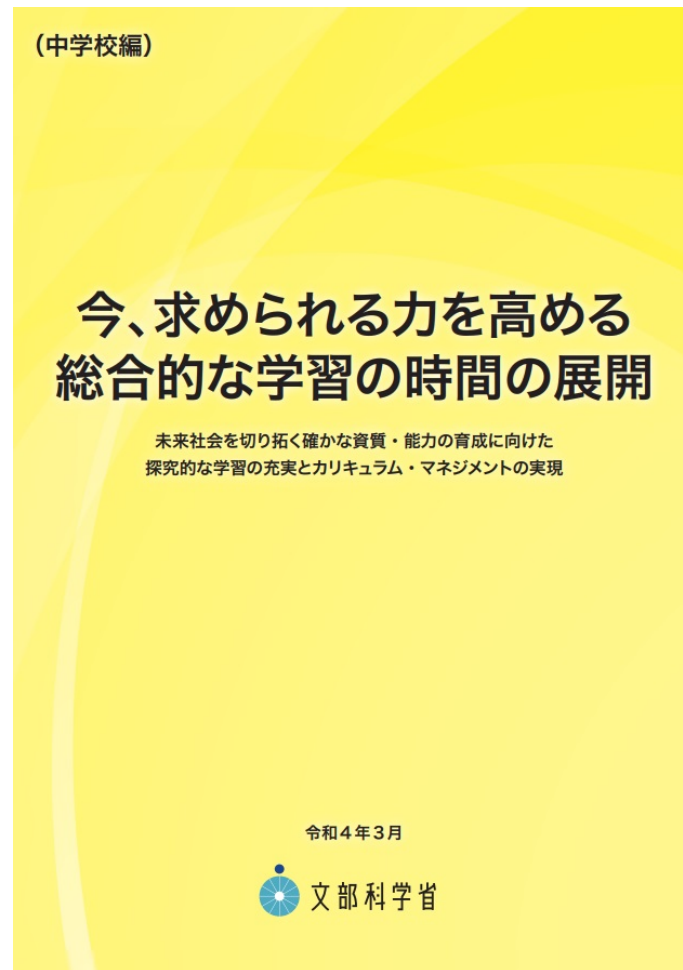
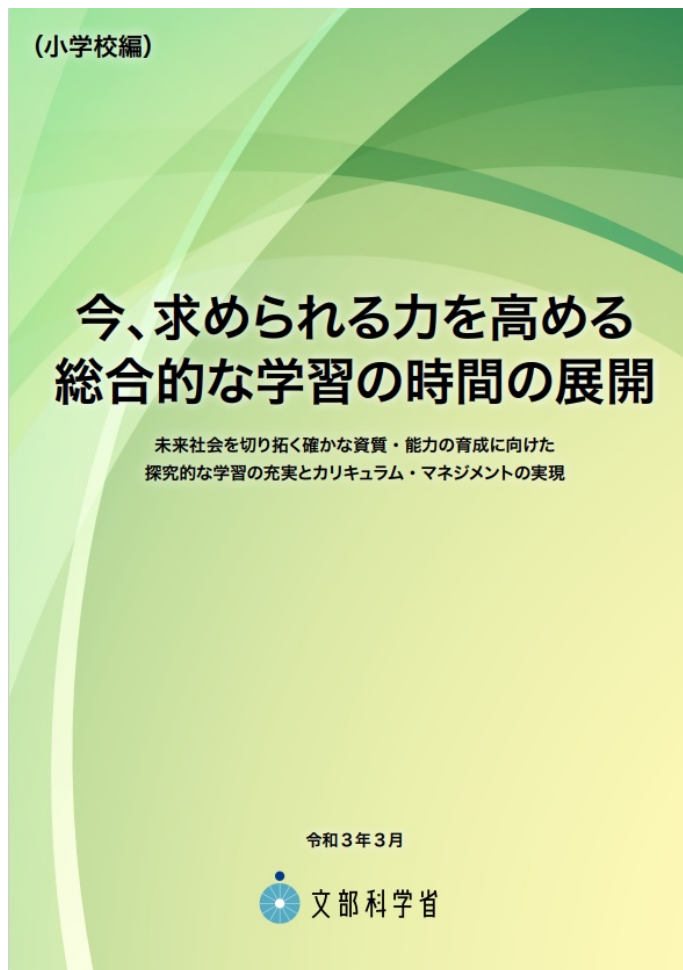
教授 清國 祐二



独立行政法人教職員支援機構

<参考資料>

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』
小学校編（令和3年3月） / 中学校編（令和4年3月）



目次

- 1 「探究的な学習の過程」はなぜ有効か
- 2 アクティブラーニングとスピンオフ
- 3 プロセスの展開で有用な方法
- 4 振り返りの視点

1 「探究的な学習の過程」はなぜ有効か

「予測困難な時代に、

一人一人が未来の創り手となる」

①予測できない事態に対応せざるを得ない

ほとんどの場合「正解がない」「経験がない」

②課題は複雑に絡み合い、ひとりでは到底解決できない

多様な他者と協働して納得解を作り出す

③より積極的に未来に関与する必要が出てくる

未来を見据え、人間の価値や強みを生かす

→ より良い学校教育を通じて、体験的に学び取る

出典:「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(中央教育審議会答申;平成28年12月21日)

2 アクティブラーニングとスピノフ

ダイナミックな学びがもたらす教育的効果

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の自覚

= 学びに必要な「自己決定・主導性」の覚醒

実態は・・・「学びの相対化の困難さ」という大人の認識と

それゆえの「個別最適さの押し付け」があったのでは？



「探究や協働の過程」の力学からの「スピノフ（派生）」

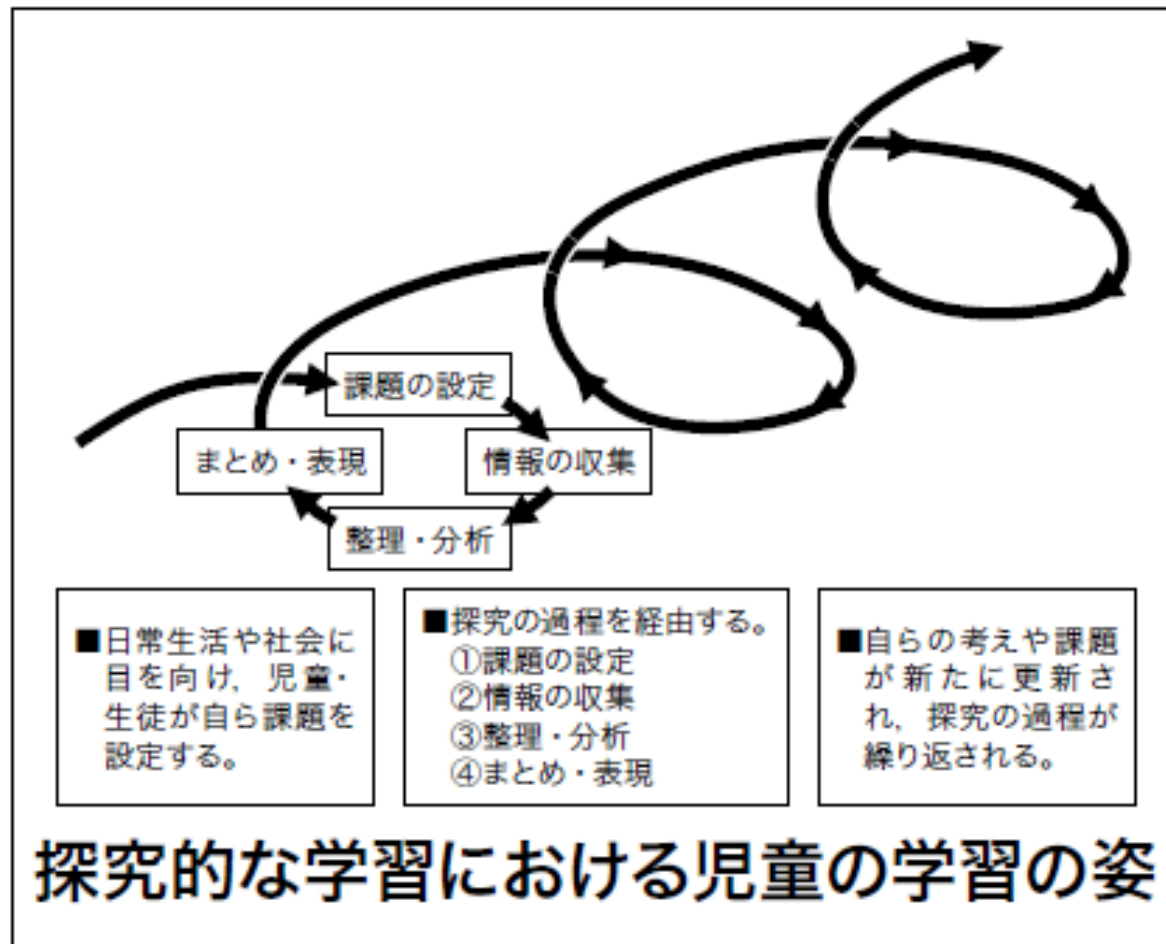
→ 「個別最適さ」の手がかりとなる

探究の学びがもつ「余白」 = 「意外性・偶発性・新規性」など

学びの「自己決定・主導性」の自覚

= 「生涯にわたり学び続ける力」の獲得

2 アクティブラーニングとスピノフ



出典:文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』(小学校編)令和3年3月)20頁

2 アクティブラーニングとスピノフ

ダイナミックな学びがもたらす教育的効果

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の自覚

= 学びに必要な「自己決定・主導性」の覚醒

実態は・・・「学びの相対化の困難さ」という大人の認識と

それゆえの「個別最適さの押し付け」があったのでは？



「探究や協働の過程」の力学からの「スピノフ（派生）」

→ 「個別最適さ」の手がかりとなる

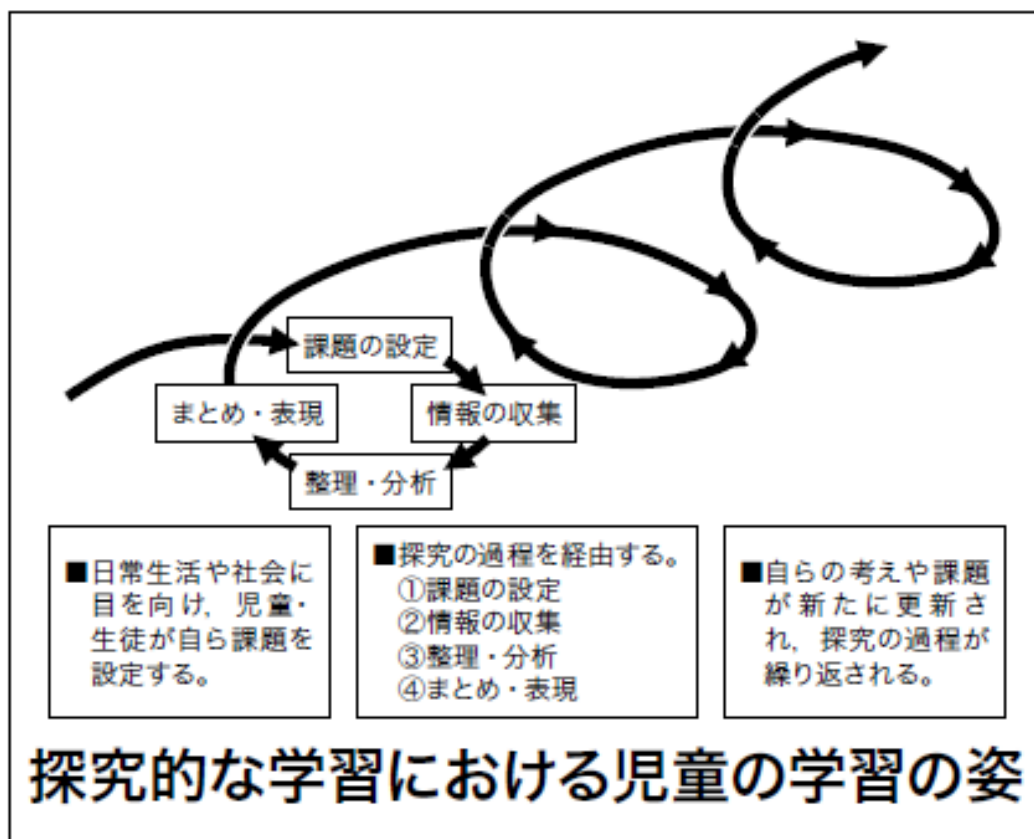
探究の学びがもつ「余白」 = 「意外性・偶発性・新奇性」など

学びの「自己決定・主導性」の自覚

= 「生涯にわたり学び続ける力」の獲得

3 プロセスの展開で有用な方法

探究的な学習における児童の学習の姿 [探究の過程]



- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

3 プロセスの展開で有用な方法①

事例⑥ KJ法的な手法で課題を設定する

付せん（カード）を活用したKJ法的な手法を用いて、体験活動などを通して生まれた気づきや疑問を類型化することで、課題を設定していきます。

実践例 付せん（カード）を基にした話し合いからの課題の設定



【ポイント】

- 付せん（カード）の使い方の工夫
 - ・一枚に対して一つの気づきや疑問を書くようにする。
 - ・付せんの向きをそろえ、仲間分けをしやすくする。
- 少数意見の取扱い
 - ・どのグループにも属さなかった意見も、一つの意見として尊重する。
- 教科等との関連
 - ・例えば、国語科における話すこと聞くことに関する学習など。

- 1 体験活動後に感じたこと、疑問に感じたことを付せん（カード）に書く。
- 2 性質などが共通する付せん（カード）をグループとしてまとめていく。
- 3 付せん（カード）のまとめりにタイトルやキーワードを付ける。
- 4 タイトルやキーワードを基に話し合い、取り組むべき課題を設定する。

①課題の設定

* 24～29頁に9つの方法を紹介

<視点>

- ・ 個人の気づきから全員の学びへ発展
- ・ 共同作業（協働）の意味への気づき
- ・ 思考の構造化や合意形成

前掲:『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』令和3年3月)27頁

3 プロセスの展開で有用な方法②

事例② フリップボードで情報を収集する

フリップボードを提示してインタビューする方法は、内容が一目で伝わりやすく、質問も同時にできるため、確実な情報収集につながります。また、相手にとっても短時間で回答できるよさがあります。

実践例 フリップボードを用いたインタビューによる情報収集



【ポイント】

- 質問内容の吟味
 - ・聞きたいことを端的に表し、答えやすい質問内容を吟味する。
- 集計方法の工夫
 - ・集計表をフリップボードと一体化して結果を把握しやすくするなどの工夫も考えられる。
- 教科等との関連
 - ・例えば、算数科におけるデータの活用に関する学習など。

②情報の収集

30～39頁に17の方法を紹介

<視点>

- ・ 課題理解の接近に適した方法
- ・ 工夫やアレンジにつなげる

前掲:『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』(令和3年3月)31頁

3 プロセスの展開で有用な方法③

事例③ 統計的手法を用いて整理・分析する

算数科の「データの活用」と関連させて、収集した情報を統計的に整理・分析することで、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を推測したりすることができます。

実践例 地域の特産品を使ったお弁当の開発

T: 特産品弁当の値段は、何円に設定するのがいいかな？

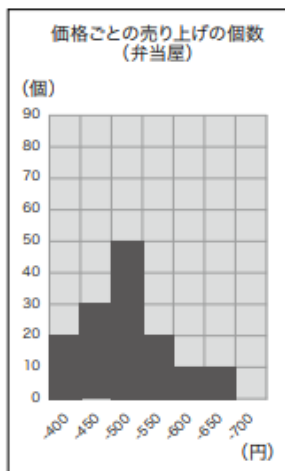
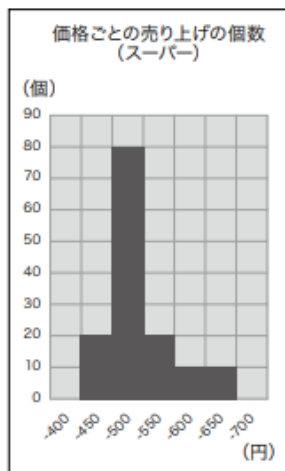
C: 参考になればと思って、まちのスーパーやお弁当屋さんで、お弁当の価格ごとの売り上げ個数を調べてみました。

T: なるほど。その情報を整理・分析するときに、算数の授業で学習したことは使えそう？

【ポイント】

●分析の視点

・代表値（平均値、最頻値、中央値）の特徴を把握したうえで、今行おうとしている分析に適しているかどうかを判断することが大切である。



算数で習った柱状グラフ (ヒストグラム) にしてみたよ。

平均値を求めて比べてみようかな。
スーパー: 約490円 弁当屋: 約480円

最頻値を求めて比べてみようかな。
スーパー: 480円 弁当屋: 520円

③整理・分析

40～47頁に13の方法を紹介

<視点>

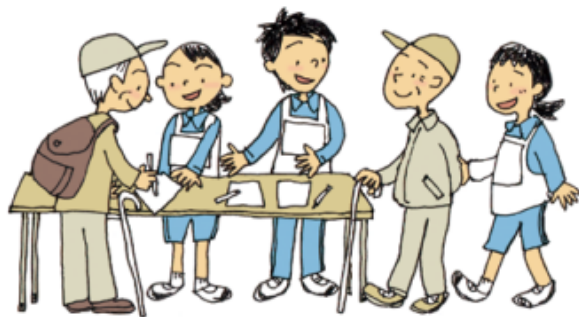
- ・まとめ・表現を意識しながら
- ・複数の方法を比較することで、最適な方法を

3 プロセスの展開で有用な方法④

事例⑪ 社会への参画を通してまとめ・表現する

日常生活や社会の中にある問題や地域の事象を実際に解決していく单元では、児童が社会参画することが考えられます。こうした学習活動をとおり、課題解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が育まれ、社会への参画意識も醸成されます。

実践例 地域ぐるみの防災訓練の企画・運営



社会への参画の例

- ・地域の伝統・文化を伝える祭りの企画・運営
- ・観光ガイドとして地域の名所案内
- ・環境フェスタの企画・開催
- ・商店街の再生イベントの企画・開催 など

【ポイント】

- 同じ問題の解決を目指す地域の人や行政機関、専門家との協働
- ・ 立場が異なる他者と繰り返し関わる場を設定し、目的に照らして多様な視点で検討し、一つのものにまとめていくことで、事象に対する認識が深まる。
- 成果の検証
- ・ 例えば、参加者にアンケートを取るなど、成果の検証する場面を設定することで、児童が新たな課題を設定することにつながる。

前掲:『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』令和3年3月)53頁

④まとめ・表現

40～54頁に13の方法を紹介

<視点>

- ・ 学びの軌跡を形にする
- ・ 形にしたものを他者に伝える
- ・ 解決に向かう実践・行動を促す
- ・ 次の課題意識を生み出す

4 振り返りの視点

- 学校のあらゆる教育活動を思い浮かべ
これらの「手法」の有用性を考えてみる
- 「手法」を手がかりにすることで
カリキュラム・マネジメント（教育
活動の横断性）のイメージを確認する
- 「手法」は目的を達成するための手段
教職員が見失ってはならないことを
再確認する（手段を目的の関係）

「探究的な学習の過程」の方法論

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』

小学校編（令和3年3月）

中学校編（令和4年3月）を用いて

大分大学大学院教育学研究科

教授 清國 祐二



独立行政法人教職員支援機構